Young Perceptionists' Seminar 2017

伊豆

2017 年 8 月 18 日（金）～8 月 20 日（日）in 静岡県伊豆の国市

本研究会は、日本視覚学会及び日本基礎心理学会より
研究会開催に係る助成を受けております。
ここに記して、感謝の意を表します。

目次

1. ご挨拶 ・・・

1.　ご挨拶

Young Perceptionists' Seminar（YPS）は、1972 年に名古屋大学の学生を中心に発足した、若手知覚研究者の情報交換・討論・交流を目的とする合宿形式の研究会です。今年は首都大学東京・神奈川大学・慶應義塾大学の 3 校がお引き受けし、当日は東京女子大学を含む 4 校で運営することとなりました。

本年度で 45 回目となります。かの武者小路実篤が 20 年にわたり 1 年の半分を過ごしたゆかりの宿として知られる伊豆長岡いづみ荘にての開催といたしました。3 日間にわたる YPS を皆さまが快適に過ごせますよう、実行委員会一同、誠心誠意努めて運営して参ります。

おかげさまで、参加者総数は 48 名、一般発表件数は 30 件のご登録をいただきました。さらに、特別講演として、鷲見成正先生（慶應義塾大学名誉教授）、狩野千鶴先生（慶應義塾大学名誉教授）、渡辺利夫先生（慶應義塾大学環境情報学部教授）、北川智利先生（NTT コミュニケーション科学基礎研究所主任研究員）をお招きしました。日頃の研究成果の発表に加え、活発な議論を行っていただき、ご自身の研究にお役立ていただければ幸いです。

皆さまにとって快適かつ有意義な YPS となりますよう、準備委員一同、誠心誠意努めて参りますので、皆さま奮ってご参加ください。

ＹＰＳ２０１７実行委員会
代表　村田佳代子

2. 大会概要

A） 会場案内

長岡の元湯 實篤の宿｜伊豆長岡温泉 いづみ荘

〒410-2211　静岡県伊豆の国市長岡 1045-1

http://www.saneatunoyado.com/

B） 交通案内

① **JR 東海道新幹線・本線 三島駅から**

JR 東海道新幹線・本線 三島駅→伊豆箱根鉄道駿豆線 伊豆長岡駅（修善寺行き 20 分）

伊豆箱根鉄道駿豆線 伊豆長岡駅→伊豆箱根バス 温泉場上駅(送迎バスまたは路線バス 6分）

伊豆箱根バス 温泉場上駅→いづみ荘（徒歩 0 分）

② **新宿から**

バスタ新宿→伊豆長岡・修善寺温泉ライナー 長岡温泉駅（修善寺行き 2 時間 10 分）

伊豆長岡・修善寺温泉ライナー 長岡温泉駅→いづみ荘（徒歩 4 分）

③ **JR 東海道本線 沼津駅から**

JR 東海道本線 沼津駅→伊豆箱根バス 温泉場上駅（伊豆長岡駅行き 40 分）

伊豆箱根バス 温泉場上駅→いづみ荘（徒歩 0 分）

④ **お車でお越しの方（1）**

東名高速 沼津 IC より国道 136 号線を下田方面へ 30 分→いづみ荘

⑤ **お車でお越しの方（2）**

伊豆縦貫自動車道 長泉 IC より伊豆中央道国道 414 号線を経由し 40 分→いづみ荘

C） **大会参加費・宿泊費**

学生 20,000 円（宿泊費 16,000 円、大会参加費 4,000 円、懇親会費無料）

有職者 30,000 円（宿泊費 16,000 円、大会参加費 10,000 円、懇親会費 4,000 円）

※学振 DC・PD 等は有職者に含みます。

※部分参加の方は、別途徴収します。

D） **エクスカーション**

中伊豆ワイナリーヒルズ　〒410-2501　静岡県伊豆市下白岩 1434

http://www.shidax.co.jp/winery/access/

詳しくは、「７．エクスカーション（p.43-）」をご参照ください。

E） **受付**

受付時間（8 月 18 日）は、12 時 00 分から 12 時 50 分です。この時間の間にお済ませください。

F） **発表について**

パワーポイント等を用いた口頭発表形式です。

セッション１～１０の発表時間は一人当たり 20 分（発表時間 15 分、質疑応答 5 分）です。

特別講演①～④の講演時間は、一人当たり 60 分（発表時間 50 分、質疑応答 10 分）です。

※会場は、ＶＧＡ端子に対応しております。

※実行委員会の方で、パワーポイント 2013 が起動できるノートパソコンを準備します。

　発表資料の入ったＵＳＢメモリーをお持ちいただければ、お使いになれます。

※ご自身でパソコンを持ち込み、利用していただくこともできます。

※他の接続端子との変換コードは、ご自身で準備いただくようにお願いします。

※セッション６の一部のみ、

　発表時間は一人当たり 15 分（発表時間 10 分、質疑応答 5 分）とします。

G） **諸注意**

歯ブラシ、バスタオル、フェイスタオル、寝巻等は各自ご持参ください。

シャンプー、リンス、ボディーソープ、ヘアドライヤーは用意がございます。

入浴時間は、お風呂によって異なります。

お風呂は、時間交代制で男女が入れ替わります。

詳細は、以下の通りです。

お風呂の名称	お風呂の種類	女性（時間）	男性（時間）
総檜造り野天風呂	大浴場	21:00～1:00、翌朝6:00～	ご到着～21:00まで
銘石岩風呂	大浴場	21:00～1:00、翌朝6:00～	ご到着～21:00まで
檜の内風呂	大浴場	ご到着～21:00まで	21:00～1:00、翌朝6:00～
庭園風野天風呂	大浴場	ご到着～21:00まで	21:00～1:00、翌朝6:00～
ハーブの湯	貸切風呂（定員2名）	16:00～24:00（無料・要予約）	
洞窟モグラ風呂	貸切風呂（定員2名）	16:00～24:00（無料・要予約）	
はいから浴場	貸切風呂（定員5名）	16:00～24:00（無料・要予約）	

当日は他団体のお客様も利用されますので、譲り合ってご入浴ください。
旅館から徒歩 4 分程度の距離にコンビニエンスストアがございます。
一日目の昼食のご用意はございませんので、あらかじめご了承ください。
三日目の昼食はエクスカーションにて用意がございます。
エクスカーションに参加されない方は、三日目の昼食のご用意がありませんので、ご了承ください。

3.　大会スケジュールの概要

	8月18日	8月19日	8月20日
7:00		朝食	
7:30			朝食
8:00			
8:30		セッション４ 8:30-9:35	
9:00			セッション９ 8:50-9:55
9:30			
10:00		セッション５ 9:45-10:50	セッション１０ 10:05-10:50
10:30			
11:00		特別講演② 狩野千鶴先生 11:00-12:00	特別講演④ 北川智利先生 11:00-12:00
11:30			
12:00	受付		閉会のあいさつ 解散
12:30		昼食	エクスカーション会場へ移動
13:00	開会のあいさつ セッション１ 13:10-15:35		エクスカーション 昼食＆見学
13:30		セッション６ 13:40-14:35	
14:00			
14:30	セッション2 14:45-15:50	セッション７ 14:45-15:50	
15:00			
15:30			
16:00	セッション３ 16:00-17:05	セッション８ 16:00-17:05	
16:30			
17:00	特別講演① 鷲見成正先生 17:15-18:15	特別講演③ 渡辺利夫先生 17:15-18:15	
17:30			
18:00			
18:30	夕食	夕食	
19:00		ピアノの弾き語り　渡辺利夫先生	
19:30	休憩＆お風呂	休憩＆お風呂	
20:00			
20:30			
21:00			
21:30	ナイトセッション	ナイトセッション	
22:00			
22:30			
23:00			
23:30			

※特別講+B1:I216演①～④：1人60分（発表50分、質疑応答10分）
セッション１～１０：1人20分（発表15分、質疑応答5分）
セッション６の一部：1人15分（発表10分、質疑応答5分）

4. 講演・発表演題・スケジュール

8 月 18 日（金）

※丸印（○）は筆頭発表者を示します。
※タイトルの上部にそれぞれの発表番号が記載されております。

1. 受付　　（8 月 18 日 12:00-12:50）
　受付は、この時間にお済ませください。

2. 開会のあいさつ　　（8 月 18 日 12:55-13:05）
YPS2017 実行委員会 代表 村田佳代子

3. セッション 1　　（8 月 18 日 13:10-14:35）
座長：辻田匡葵

3.1. 1S011
顔画像の表情が視覚の時間的精度に及ぼす効果の検討
○小林美沙（千葉大学）
一川誠（千葉大学）

3.2. 1S012
脳波を用いた和音に特異的な律動特性の検討
○渡辺南友（慶應義塾大学）
青山敦（慶應義塾大学）

3.3. 1S013
動作特徴の階層的なベクトル量子化による行動分析
○森本智志（奈良先端科学技術大学院大学）
Mohammad Shyful Islam（奈良先端科学技術大学院大学）
駒井章治（奈良先端科学技術大学院大学）

3.4. 1S014
聴覚対象に関する考察
○境敦史（明星大学）

4.　セッション２　　（8 月 18 日 14:45-15:50）

座長：岩沖晴彦

4.1.　1S021

脅威刺激における注意と記憶との関連

○増田奈央子（久留米大学比較文化研究所）

園田直子（久留米大学）

4.2.　1S022

視空間における空間の異方性：小規模空間と大規模空間の比較

○森将輝（慶應義塾大学／日本学術振興会）

渡辺利夫（慶應義塾大学）

4.3.　1S023

ファントム・バイブレーションが生じやすい性格特性と文脈

○加地雄一（東京家政学院大学）

5. セッション３　（8 月 18 日 16:00-17:05）

座長：永登大和

5.1. 1S031

運動対象観察時の空間定位に関する実験的検討ー眼球運動との関係を中心としてー

〇本居快（愛知淑徳大学）

5.2. 1S032

複数系列刺激を用いた Attentional Blink 課題における上下視野異方性についての検討

〇三好正剛（千葉大学）

一川誠（千葉大学）

5.3. 1S033

加齢黄斑変性患者に適した読書評価法の開発

〇高橋あおい（東京女子大学／理化学研究所）

仲泊聡（理化学研究所）

小田浩一（東京女子大学）

6. 特別講演①　（8 月 18 日 17:15-18:15）

司会：草野勉

6.1. 1KD01

わが国の運動視研究事始め

〇鷲見成正（慶應義塾大学）

7. 夕食　（8 月 18 日 18:45-19:30）

8. 休憩＆お風呂時間　（8 月 18 日 19:30-）

お風呂は、ナイトセッション中もお入りになれます。

9. ナイトセッション　（8 月 18 日 19:30-）

8 月 19 日（土）

10. 朝食　　（8 月 18 日 7:10-8:10）

11. セッション 4　　（8 月 19 日 8:30-9:35）
座長：森本智志

11.1. 2S041
仮説形成
○下條朝也（名古屋大学）

11.2. 2S042
内発的注意と視覚的時間精度
○一川誠（千葉大学）

11.3. 2S043
0.4 秒までの遅延聴覚フィードバックが時間間隔生成に与える影響
○箕谷啓太（東京工業大学／日本学術振興会）
柏野牧夫（NTT コミュニケーション科学基礎研究所／東京工業大学）

12. セッション 5　　（8 月 19 日 9:45-10:50）
座長：竹ノ内博史

12.1. 2S051
食品集合に対する鮮度認知特性の検討
○小林由佳（中京大学）
高橋康介（中京大学）

12.2. 2S052
風によるベクションの促進と抑制~温度による影響~
○村田佳代子（首都大学東京）
妹尾武治（九州大学）

12.3. 2S053
前庭感覚情報に依存した視覚情報処理の検討ー仮想現実環境における脳波計測
○上野太郎（慶應義塾大学）
伊藤誠（慶應義塾大学）
青山敦（慶應義塾大学）

13. 特別講演②　　（8 月 19 日 11:00-12:00）

司会：小松英海

13.1. 2KD02

現象的空間に於ける物の前の成立

○狩野千鶴（慶應義塾大学）

14. 昼食　　（8 月 19 日 12:30-13:10）

15. セッション 6　　（8 月 19 日 13:40-14:35）

座長：河村康佑

15.1. 2S061

クライミング動作における心理学的アプローチ(仮)

○杉卓洋（首都大学東京）

※10 分発表、5 分質疑応答

15.2. 2S062

時間制限が視覚弁別に及ぼす影響について

○猿澤拓真（首都大学東京）

石原正規（首都大学東京）

※10 分発表、5 分質疑応答

15.3. 2S063

空間と感情の連合—利き手・利き足による影響の検討—

○山本健太郎（九州大学）

佐々木恭志郎（早稲田大学／日本学術振興会）

16. セッション７　　（8 月 19 日 14:45-15:50）

座長：金谷英俊

16.1. 2S071

ベクションの現象的様相

○小松英海（慶應義塾大学）
村田佳代子（首都大学東京）
妹尾武治（九州大学）

16.2. 2S072

写真の知覚的絶対距離と知覚的相対距離
：客観的距離と焦点距離と画面の大きさと観察距離と

○竹澤智美（立命館大学）

16.3. 2S073

フォントの線幅が日本語文の読みやすさに与える影響

○大西まどか（東京女子大学）
小田浩一（東京女子大学）

17. セッション８　　（8 月 19 日 16:00-17:05）

座長：安岡晶子

17.1. 2S081

サル扁桃核における刺激の主観的価値と強度の表現

○岩沖晴彦（京都大学霊長類研究所）
中村克樹（京都大学霊長類研究所）

17.2. 2S082

ケプストラム分析を用いた音声の因子分析

○上田和夫（九州大学／九州大学応用知覚科学研究センター）
岸田拓也（九州大学／日本学術振興会）
中島祥好（九州大学／九州大学応用知覚科学研究センター）

17.3. 2S083

まばたきが視野闘争に及ぼす影響

○佐藤涼矢（千葉大学）

18. 特別講演③　　（8 月 19 日 17:15-18:15）

司会：森将輝

18.1. 2KD03

物理空間と知覚空間の間の多次元写像関数について

○渡辺利夫（慶應義塾大学）

19. 夕食　　（8 月 19 日 18:45-19:30）

20. ピアノ演奏会　　（8 月 19 日 19:15-19:45）

渡辺利夫（慶應義塾大学）

21. 休憩＆お風呂時間　　（8 月 19 日 19:30-）

お風呂は、ナイトセッション中もお入りになれます。

22. ナイトセッション　　（8 月 19 日 19:30-）

23. 朝食　　（8 月 20 日 7:30-8:30）

24. セッション９　　（8 月 20 日 8:50-9:55）

座長： 山本健太郎

24.1. 3S091

映画・映像と知覚心理学

○鈴木清重（東の森映画製作所／慶應義塾大学）

24.2. 3S092

唇の色が肌の明るさ知覚に及ぼす効果

○小林勇輝（大阪大学）
松下戦具（大阪大学）
森川和則（大阪大学）

24.3. 3S093

視覚刺激が示唆する温冷と反応手の温冷との刺激-運動反応適合性

○金谷英俊（愛知淑徳大学）
西崎友規子（京都工芸繊維大学大学戦略推進機構）
永井聖剛（立命館大学）

25. セッション１０　（8 月 20 日 10:05-10:50）

座長： 箕谷啓太

25.1. 3S101

高親密度の有意味刺激で構成された配列に対する高速比率判断

○佐久間直人（千葉大学）

25.2. 3S102

iPad による読書視力評価アプリの試作

○小田浩一（東京女子大学）
乃一祐（東京女子大学）
鈴木陽菜（東京女子大学）
Long To（Boston, MA）
Gordon Legge（University of Minnesota）

26. 特別講演④　　（8 月 20 日 11:00-12:00）

司会：村田佳代子

26.1. 3KD04

マインドフルネスと多感覚統合

○北川智利（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）

27. 閉会のあいさつ　　（8 月 20 日 12:05-12:15）

YPS2017 実行委員会 代表 村田佳代子

28. 解散＆エクスカーション　　（8 月 18 日 12:30-）

現地解散になります。

エクスカーションへ参加する方々は、12:30 にロビーにお集まりください。

5. 特別講演内容

- 特別講演①　（8 月 18 日（金）17 時 15 分～18 時 15 分）

わが国の運動視研究事始め

鷲見成正

慶應義塾大学 名誉教授

ストロボスコープ（驚き盤）と視覚心理学の結びつきから生じた仮現運動の運動視研究は新たな学説「ゲシュタルト心理学」へと発展した。この理論の影響を強く受けたわが国の実験心理学は、1930 年から 40 年にかけて事物を受け入れる「眼」から対象を見る「目」へ、「外なるものは内へ」から「内なるものは外へ」に視点を置き換えた視知覚運動視研究が盛んに行なわれるようになった。詳細な条件分析を基にして研究を深めていく手法や研究を支える実験機器がすべてといってよいほど実験者自ら考案し製作された自作品であることなど、今日われわれが学ぶべきことが多い。当時を振り返り運動視研究始まりのころを考察してみる。

鷲見成正先生のプロフィール

【経歴】

1959 年　千葉大学文理学部心理学専攻 卒業

1964 年　慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻 修了

1964 年　慶應義塾大学 助手（-1966 年）

1966 年　慶應義塾大学 専任講師（-1967 年）

1967 年　慶應義塾大学 助教授（-1977 年）

1977 年　慶應義塾大学 教授（-1997 年）

1997 年　慶應義塾大学名誉教授

1997 年　日本女子大学 教授（-2001 年）

2001 年　帝京平成大学 教授（-2008 年）

【研究テーマ】

運動視、知覚体制化など

【主な著書】

鷲見 成正（2013）. わが国の運動視研究: 1930-40 年代を中心に行なわれた主な実験と使われた自作機器について *心理学史・心理学論, 14/15*, 31-45.

大山 正・鷲見 成正（2014）. 見てわかる視覚心理学　新曜社

● 特別講演②　（8 月 19 日（土）11 時 00 分～12 時 00 分）

現象的空間に於ける物の前の成立

狩野千鶴

慶應義塾大学 名誉教授

われわれの身近な環境において、どこに物の前が成立するかを研究した。被験者(平均年齢 5 歳）は、机の前に座し、机上に置かれたおもちゃなどの前に積み木を置いてくださいと指示した。この条件では、明白な方向性を持つ物の前の認知では、物自体の方向性で前が決まる。明白な方向性を持たない物では自己中心的な方向付け、または物と自己との交互作用が働く。被験者が、歩いて行って物(机、椅子など）の前に立つ、という課題ではその周囲の状況や、被験者の移動方向が、影響を与える。

【経歴】

1957 年　慶應義塾大学文学部哲学科心理学専攻 卒業
1959 年　慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程 修了
1962 年　慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程 修了
1966 年　文学博士
1967 年　アレキサンダー・フォン・フンボルド財団研究奨学金
　　西ドイツにあるミュンスター大学のヴォルフガンク・メッツガー教授の許で研究（-1968）
1978 年　慶應義塾大学商学部 助教授
1982 年　慶應義塾大学商学部 教授
1985 年　スウェーデンにあるウプサラ大学のグンナー・ヨハンソン教授の許で研究(-1986)
1999 年　慶應義塾大学 名誉教授

【研究テーマ】

空間方位、自己運動知覚、運動軌道、仮現運動など

【主な論文】

Ogawa, T., & Kano, C. (1974). ANSCHAULICHE BESTIMMUNG DES “VORN” VON GEGENSTÄNDEN DURCH DAS VERHALTEN VON KINDERN (Behavioral determination of mae, ”in front of” by Japanese children). *Japanese Psychological Research*, *16*, 84-95. (in German)

Kano, C. (1991). The perception of self-motion induced by peripheral visual information in sitting and supine postures. *Ecological Psychology*, *3*, 241-252. doi: 10.1207/s15326969eco0303_3

狩野 千鶴（1988）. 自己運動知覚と視覚刺激の運動特性: 視覚情報. テレビジョン学会技術報告, *12*(20), 13-18.

狩野 千鶴（1991）. 自己運動知覚と視覚系運動情報. 心理学評論, *34*, 240-256.

● 特別講演③　（8 月 19 日（土）17 時 15 分～18 時 15 分）

物理空間と知覚空間の間の多次元写像関数について

渡辺利夫

慶應義塾大学環境情報学部 教授

私たちの周りに存在する物理空間は、あるがままに知覚されているのではない。そこで、物理的空間と知覚空間との対応関係が問題となる。古くは、Stevens による「べき関数」を利用しての関数関係が見出されてきたが、それは一次元同士の対応であり、物理空間と知覚空間との関係を調べるには、２次元あるいは３次元の対応関係が必要となる。物理空間と知覚空間との間に線形関係が存在するならば、アフィン変換、あるいは、奥行きを考慮に入れるならば射影変換が仮定されるが、非線形関係の場合には、アフィン変換・射影変換よりもさらに一般的な非線形関係を導入せざるをえない。ここでは、その候補として、一般化射影変換を導入し、その可能性について考える。さらには、視空間の幾何学的性質、特に曲率をもつ非ユークリッド空間（双曲型空間・楕円型空間）の検出の可能性についても言及してゆく。

【経歴】

1977 年　同志社大学文学部文化学科心理学専攻 卒業

1980 年　慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻 修了

1988 年　カリフォルニア大学社会科学部認知科学科大学院博士課程 修了（Ph.D）

1990 年　慶應義塾大学環境情報学部 専任講師

2003 年　慶應義塾大学環境情報学部 教授

【研究テーマ】

空間知覚と空間認知における数理モデル構成

【主な論文】

渡辺　利夫（2008）. 視空間および認知空間の幾何学モデル. *認知科学*, *15*, 62-74.　doi: 10.11225/jcss.15.62

Watanabe, T. (2006). Geometrical structures of photographic and stereoscopic spaces. *The Spanish Journal of Psychology*, *9*, 263-272.　doi: 10.1017/S1138741600006168

【主な著書】

渡辺 利夫（2005）. フレッシュマンから大学院生までのデータ解析・R 言語　ナカニシヤ出版

渡辺 利夫（2009）. 知覚・認知モデル論　ナカニシヤ出版

● 特別講演④　（8 月 20 日（日）11 時 00 分～12 時 00 分）

マインドフルネスと多感覚統合

北川智利

NTT コミュニケーション科学基礎研究所 主任研究員

最近注目を集めているマインドフルネスは「意図的に，今この瞬間に，判断せずに，注意をとどめること」と定義され，そのような心理的な状態が様々な心理的健康や心理的パフォーマンスに良い影響を与えることが報告されている。マインドフルネスの「自動的に判断しない，解釈しない，反応しない」という要素は主に認知的・情動的な処理について議論されることが多かったが，自動的な解釈は知覚処理にもより本質的に含まれている。本講演では，マインドフルネス瞑想が多感覚統合に及ぼす影響を検討した研究を紹介する。私たちの最近の研究は，瞑想未経験者が短時間のマインドフルネス瞑想を経験することによって比較的高次の多感覚統合の機能が弱くなること，また，長期間のマインドフルネス瞑想の実践によってより低次の多感覚統合の機能も弱くなることを示唆している。マインドフルネスの機序について多感覚統合の視点から迫る可能性について議論したい。

【経歴】

1995 年　東京都立大学人文学部心理・教育学科心理学専攻 卒業
1997 年　東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程心理学専攻 修了
2000 年　東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程心理学専攻 単位取得退学
2001 年　東京都立大学人文学部 助手（-2003 年）
2003 年　東京都立大学より博士（心理学）を取得
2003 年　日本学術振興会 特別研究員 SPD（-2004 年）
2003 年　日本大学文理学部 研究員（-2004 年）
2003 年　オクスフォード大学 アカデミック・ビジター（-2004 年）
2004 年　金沢工業大学情報フロンティア学部心理情報学科 講師（-2005 年）
2005 年　NTT コミュニケーション科学基礎研究所 リサーチ・アソシエイト（-2009 年）
2010 年　NTT コミュニケーション科学基礎研究所 主任研究員（現在）

【研究テーマ】

多感覚統合、身体知覚、知覚／認知の個人差、感情、マインドフルネスなど

【主な論文】

Kitagawa, N., & Spence, C. (2006). Audiotactile multisensory interactions in human information processing. *Japanese Psychological Research*, *48*, 158-173.　doi: 10.1111/j.1468-5884.2006.00317.x

Kitagawa, N., Igarashi, Y., & Kashino, M. (2009). The tactile continuity illusion. *Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance*, *35*, 1784-1790.　doi: 10.1037/a0016891

【主な著書】

北川 智利（2014）. 非音声知覚における視聴覚情報の統合処理　岩宮眞一郎（編）音響サイエンスシリーズ 11　視聴覚融合の科学（pp. 1-31）コロナ社

8 月 18 日（金）

※丸印（○）は筆頭発表者を示します。
※タイトルの上部にそれぞれの発表番号が記載されております。

6. セッション発表内容

1. セッション 1　　（8 月 18 日 13:10-14:35）
座長：辻田匡葵

1.1. 1S011
顔画像の表情が視覚の時間的精度に及ぼす効果の検討

○小林美沙（千葉大学）
一川誠（千葉大学）

これまでの我々の研究で，写真画像を用いて，危険な画像の方が安全な画像より主観的時間が長くなり，視覚の時間的精度も高くなることを明らかにした．しかし，写真画像を用いていたために色彩を完全に統制することは難しかった．そのため，本研究では，色彩もより統制されており，主観的時間の長さが変化することが知られている顔の表情画像を用いて視覚の時間的精度を測定した．表情は，怒り，恐れ，喜び，ニュートラルの画像を用いた．カラー画像の彩度を 10～50ms 落とし，実験参加者は彩度の変化が見えたかを回答した．視覚の時間精度の指標として，彩度が落ちた画像を検出できる提示時間の長さを算出し，表情による影響を検討する．
キーワード：時間的精度，環状，表情

1.2.　1S012

脳波を用いた和音に特異的な律動特性の検討

○渡辺南友（慶應義塾大学）
青山敦（慶應義塾大学）

「和音」はあらゆる楽曲で用いられ，音楽を構成する重要な要素であるが，その脳内処理のメカニズムは未だに解明されていない．単音については周波数によって情報処理を行う脳部位が異なるという局在性がわかっているが，和音についてこのような報告はされていない．そこで本研究では位相情報などについて注目し，和音における脳情報処理を解明することを目指した．これまで 19～24 歳の 10 名の音楽経験者に和音と単音聴取時の脳波計測実験を実施し解析を行った結果，音の構成音数が増加するに従い大脳皮質の聴覚野において lowγ 帯域(約 30-50Hz)の脳波の位相同期度が上昇することが明らかになった．複数の音を聴取した際にヒトの内耳で生成される結合音は構成音数が多いほど増加・増強することから，聴覚処理の初期段階から生じる和音に特異的な律動変化には結合音が影響している可能性がある．

キーワード：HARMONY，NEURAL OSCILLATIONS，AUDITORY，EEG

1.3.　1S013

動作特徴の階層的なベクトル量子化による行動分析

○森本智志（奈良先端科学技術大学院大学）
Mohammad Shyful Islam（奈良先端科学技術大学院大学）
駒井章治（奈良先端科学技術大学院大学）

一般にヒトや動物の知覚を扱う実験科学では，研究者が先行研究や経験的な知見に基づいて入力刺激と行動出力の両変数を選択する．しかしこの方法論は，注目する変数同士の関係しか考慮しないため，研究者の主観的な選択に結果が依存するという根本的な問題を抱えている．特に多変数の関与が明らかな知覚現象を扱う場合，実験デザインの設計によって本質的な変数を見逃したり，逆に本質的ではない変数に引きずられた議論に陥いる危険を伴う．そこで我々は、特に行動に含まれる変数の抽出に着目し，機械学習を用いた新しいアプローチについて検討を進めている．分析対象とする行動の映像データから動作特徴量を算出し，階層的にベクトル量子化することで行動を様々なスケールの動作クラスに分割し，変数を自動的に抽出する．本発表では，主に自閉症モデルマウスの映像データに対する分析例を中心に議論したい．

キーワード：行動分析，変数抽出，機械学習，クラスタリング，解析手法

1.4.　2S014

聴覚対象に関する考察

○境敦史（明星大学）

知覚にあたって，私たちは「何を」聴くのか．世界には，聴かれるべく「何が」存在しているのか．これらのことについて，デモンストレーションを交えつつ考察する．

キーワード：聴知覚，事象知覚，図と地

2. セッション 2　　(8 月 18 日 14:45-15:50)

座長：岩沖晴彦

2.1. 1S021

脅威刺激における注意と記憶との関連

○増田奈央子（久留米大学比較文化研究所）
園田直子（久留米大学）

注意集中仮説(Christianson,1992)では，脅威刺激を見たとき，中心に注意が集中し中心情報の記憶が促進し，注意が向けられなかった周辺情報の記憶が抑制されることが仮定されている．注意集中仮説で仮定されている中心情報が空間的か意味的か曖昧であることが指摘されている．本研究の目的は，脅威刺激を見たときの注意と記憶との関連について明らかにすることである．具体的には，空間的な中心情報と意味的な中心情報ではどちらに注意が向くかを明らかにするために，中心視野に脅威刺激が出た場合と周辺視野に脅威刺激が出た場合の注意の向き方が異なるか検討した．また注意の向き方が記憶と関連するかについても検討した．画像刺激として IAPS の画像から脅威刺激 20 枚，中性刺激 80 枚を用いた．実験では中心視野に画像 1 枚，周辺視野に画像 4 枚を同時に呈示した．その後，注意課題として 5 枚の画像が出た場所のいずれかに課題を呈示し，すべての試行が終わった後に記憶課題を行った．

キーワード：脅威刺激，注意，記憶

2.2. 1S022

視空間における空間の異方性：小規模空間と大規模空間の比較

○森将輝（慶應義塾大学／日本学術振興会）
渡辺利夫（慶應義塾大学）

視空間がどのような幾何学的性質を持つかはしばしば検討されている．本研究は，空間の大きさが異なる視空間の幾何学的性質を調べた．実験参加者 36 人は，固定点から両眼で 28 個の判断地点を観察し，それぞれの判断地点までの絶対距離と角度が尋ねられた．判断地点は，固定点からの距離が 63 m から 198 m の範囲，角度が－66° から 64° の範囲にある 12 地点と，距離が 334 m から 6349 m の範囲，角度が－54° から 78° の範囲である 16 地点に振り分けられた．個人毎に，小規模あるいは大規模な視空間と物理空間の間に線形変換による写像関数を当てはめた．基底ベクトル値に関し，座標軸の方向と空間の規模の 2 要因について分散分析を行った．その結果，座標軸の方向の主効果に有意差があり，空間の規模の主効果と，2 要因の交互作用には有意差がなかった．これらの結果は，視空間が，空間の大きさに関わらず，側方よりも奥行方向に狭い空間であり，空間の異方性を持つ可能性を示唆する．

キーワード：視空間，空間知覚，異方性，幾何学的性質，線形変換

2.3.　1S023

ファントム・バイブレーションが生じやすい性格特性と文脈

○加地雄一（東京家政学院大学）

携帯電話やスマートフォンの着信がないにもかかわらず着信の振動を感じる現象をファントム・バイブレーション（Phantom Vibration：PV）という．PV は着信が常に気になるスマートフォン依存症者や，緊急時の着信に常に注意を払い続けなくてはならない医療従事者に生じる症候群として論じられることが比較的多い．しかし，PV は特異な状態や状況において生じる特異な現象とは限らず，一般的な人々の間で日常的に経験される現象でもある．本研究では，一般大学生を対象に，ビッグファイブ性格質問紙を実施し，PV を経験したことがあるかどうかを尋ね，経験者にはどのような時に経験したかについて自由記述を求めた．これらの結果に基づき，PV を経験しやすい人の性格特性，PV を経験しやすい状況について考察する．

キーワード：錯覚，触覚，性格，文脈

3. セッション 3　　（8 月 18 日 16:00-17:05）
座長：永登大和

3.1. 1S031
運動対象観察時の空間定位に関する実験的検討ー眼球運動との関係を中心としてー

○本居快（愛知淑徳大学）

眼球運動抑制下で仮現運動刺激を観察した時に，瞬間呈示した視標が運動刺激方向に変位して知覚される．この現象には眼球運動指令信号と注意との相互作用の関与が仮定される（Shim & Cavanagh, 2006）．しかし，この仮説の検証には，実運動刺激観察時，およびサッカードとパシュートの眼球運動生起時の視標の変位について検討する必要がある，そこで本研究では，Shim & Cavanagh（2006）と同様の実験パラダイムを用いて，実験 1 でサッカードとパシュートの各眼球運動生起時の視標の変位について，また，実験 2 で眼球運動抑制下での仮現運動刺激観察時と実運動観察時の視標の変位について検討した．その結果，①眼球運動抑制下でも眼球運動生起時でも視標の刺激方向への変位が認められ，②サッカード時よりもパシュート時の方が視標の変位量は大きく，③仮現運動観察時よりも実運動観察時の方が視標の変位量が大きいとの所見を得た．この結果は，Shim & Cavanagh(2006)の仮説を補強する必要を示唆している．

キーワード：眼球運動，仮現運動，実際運動，位置の錯誤，注意

3.2. 1S032
複数系列刺激を用いた Attentional Blink 課題における上下視野異方性についての検討

○三好正剛（千葉大学）
一川誠（千葉大学）

注意課題の成績は下視野でより高くなるという上下視野異方性が多くの先行研究で見出されてきた．他方，三好（2016）は複数の RSVP 系列を用いた Attentional Blink (AB) 課題において，上視野に T1，下視野に T2 が呈示されたときは，それぞれを逆に配置した場合よりもターゲットが見落とされやすくなることを見出した．本研究では，下視野におけるターゲットの見落とし頻度の増大が，視野位置の異方性か，2 つの RSVP 系列の呈示位置関係のどちらに由来するのか検討した．上下視野それぞれに RSVP 系列を呈示する条件と，いずれかの視野にのみ RSVP 系列を呈示する条件が用意された．T1 と T2 が異なる視野に呈示された条件のみにおいて下視野の T2 が上視野よりも見落とされやすく，その他の条件における視野位置異方性は認められなかった．これらの結果は，各視野の注意処理の優先度の違いによって議論された．

キーワード：注意，注意の瞬き，上下視野異方性

3.3. 1S033

加齢黄斑変性患者に適した読書評価法の開発

○高橋あおい（東京女子大学／理化学研究所）
仲泊聡（理化学研究所）
小田浩一（東京女子大学）

視覚機能が低下したときに最も困るのが「読書」である(西脇ほか，2001)．読書評価法であるMNREAD(Mansfield ほか，1996)とその日本語版の MNREAD-J(小田・西村，2002)は，視覚障害者が快適に文字を読むのに必要な拡大率を求める検査として臨床の現場で使われているが，中心視野が欠けることで視力が著しく低下する加齢黄斑変性の患者の読書評価をするのには困難である場合があった．本研究は，30 文字の簡単な日本語文から成る MNREAD-J と，4 文字 MNREAD-J の他に，新たに作成した 3 文字 MNREAD-J を加齢黄斑変性患者に対して実施した，著しく視力が低い患者は，形態的な複雑性の高い文字の読みは困難であり，複雑性の統制が必要である可能性が示された．そして，MNREAD(-J)から得られる読書曲線の形，及びその推定方法についても検討を行った．

キーワード：文字認知，視野欠損，読書，読書評価

4. セッション 4　　（8 月 19 日 8:30-9:35）
座長：森本智志

4.1. 2S041
仮説形成

○下條朝也（名古屋大学）

科学の発展において，説明の根本的な再構築は重要な役割を果たしてきた．科学競争が激化する昨今において，現象を最も適切に説明しうる仮説を導出する推論能力の獲得は必需であると言える．しかし，人間は様々なバイアスや信念から，誤った仮説を形成する傾向がある．そこで，本研究では，洞察問題を用いて，人間が説明を行う際の仮説形成の遷移を，眼球運動を測定することで考察する．洞察問題の解決は，閃きによるものではなく，心的制約が徐々に緩和された結果であることが明らかとなっており，説明課題として最適であると考えられる．また，心理実験に加え，発話プロトコルによる質的データを利用してパラメータを設定し，発話データから考えられうる意識的プロセスと，眼球運動による潜在意識下の認知プロセスとの相互作用のモデルを計算機上に実装することで，心理実験の結果を合理的に説明可能な理論の構築を目指す．

キーワード：説明活動，仮説形成，眼球運動

4.2.　2S042

内発的注意と視覚的時間精度

○一川誠（千葉大学）

注意が視覚情報処理における時間精度に及ぼす影響についてはまだ研究間で論争がある．すなわち，外発的注意に関しては視覚の時間精度を下げることを示す研究もあるが，内発的注意に関しては視覚の時間精度を上げることを示す研究もある．また，こうした研究では用いられている研究手法や時間精度に関する指標も異なっている．これらのことからは，先行研究間の結果の違いが，それぞれの研究で用いられている研究手法や用いられている時間精度指標における違いに基づいて生じている可能性も考えられる．本研究では，損失利得法の手法と視覚の時間的精度に関する複数の指標とを組み合わせ，内発的注意が視覚の時間精度に及ぼす効果とその意味について検討する．

キーワード：視覚情報処理，時間的精度，注意

4.3.　2S043

0.4 秒までの遅延聴覚フィードバックが時間間隔生成に与える影響

○箕谷啓太（東京工業大学／日本学術振興会）
柏野牧夫（NTT コミュニケーション科学基礎研究所／東京工業大学）

運動出力から感覚フィードバック入力までには神経伝達などに伴う遅延が存在し，この遅延は運動のタイミングを妨害する可能性がある．先行研究により，発話や同期タッピング課題において聴覚フィードバックに人工的な遅延を挿入した場合，課題成績が低下することが示されている．このような遅延フィードバックによる生成の妨害は単発運動のみが必要な時間間隔生成にもみられるのだろうか？本研究では，聴覚フィードバックの遅延を 0.4 秒までの範囲で操作し検討した．その結果，遅延によって生成精度が低下し，平均生成間隔が増大することが示された．これにより示唆される時間間隔生成のメカニズムについて，単発運動と反復運動の差異に着目して議論する．

キーワード：時間知覚，遅延聴覚フィードバック

5. セッション 5　　（8 月 19 日 9:45-10:50）
座長：竹ノ内博史

5.1. 2S051
食品集合に対する鮮度認知特性の検討

○小林由佳（中京大学）
高橋康介（中京大学）

食品の価値を評価する際に，食品の鮮度は非常に重要な情報である．我々は視覚的に鮮度を認識することが可能であり，知覚的鮮度は物理的鮮度と強く相関することが知られている(Baixas-Nogueras et al., 2003)．近年，食品画像の中のどのような物理特性が鮮度知覚に寄与するのかについての検討が進められている．この中で，野菜や果物の表面の輝度統計量や光沢といった比較的低次の画像情報が鮮度知覚に大きな影響を与えていることが示されている．一方，現代人の食品購買や進化的観点から採餌・狩猟行動を考慮すれば，複数の食品の中からもっとも鮮度の高いものを選ぶ，平均的に鮮度の高い食品群を選ぶ，などのように，鮮度認知においては単一の食品の鮮度のみならず，複数の要素からなる食品集合の鮮度をどのように認知するかという点も重要な問題である．そこで本研究では食品集団に対する鮮度認知過程について議論，検討する．
キーワード：鮮度，食の認知

5.2. 2S052
風によるベクションの促進と抑制~温度による影響~

○村田佳代子（首都大学東京）
妹尾武治（九州大学）

参加者の身体に一定の前庭刺激（振動）を与えた状態で，皮膚刺激（風）を顔に呈示すると自己運動知覚が生じることが示されている（Murata et al., 2014）．また，視覚刺激と皮膚刺激を同時に呈示するとベクションが促進することも報告されている（Seno, et al., 2011）．しかし，皮膚感覚から得られる移動情報のメカニズムはまだ明らかにされていないことが多い．皮膚感覚の特性として外界から受け取るエネルギーについての複数のチャンネルがある．本研究では皮膚特性（痛覚・圧覚・冷覚・温覚）の一つである温度の変化に着目し，皮膚に当たる風刺激の温度よる移動感覚への影響を検討した．本研究でも Seno et al. (2011) と同様の視覚刺激を用いて，コントロール条件（風なし），常温風条件，温風条件を比較した結果，全ての指標で，常温風条件ではコントロール条件よりベクションが促進し，温風条件では抑制された．
キーワード：ベクション，皮膚感覚，温度

5.3.　2S053

前庭感覚情報に依存した視覚情報処理の検討ー仮想現実環境における脳波計測

○上野太郎（慶應義塾大学）
伊藤誠（慶應義塾大学）
青山敦（慶應義塾大学）

前庭感覚は，視覚情報を始めとした複数の感覚系から情報を受け取っている．しかしながら，ヒトにおける前庭感覚操作時の脳計測は技術的に難しく，前庭感覚と視覚の関係についてはあまり分かっていない．そこで本研究では，逆さぶら下がり健康器と Virtual Reality の同時使用時の脳波を計測することで，前庭感覚と視覚の関係を探った．視覚刺激として，落下する映像を Virtual Reality Display で呈示した．一方で前庭刺激は，健康器で直立と倒立の状態を作り出し，実験協力者の身体に対して重力方向を操作した．これらを組み合わせて，重力方向と映像の落下方向に関する一致条件と不一致条件を設けた．その結果，倒立状態の一致と不一致条件では，直立状態と比較して潜時 100–150 ms から VEP の減衰が確認された．また，Granger Causality の解析結果により，頭頂部前庭部から視覚入力部への有意なコネクションが確認された．これらの結果から，前庭感覚の入力に依存して早期の視覚情報処理が変調されることが分かった．

キーワード：Visual-vestibular interaction，Multisensory integration，Body tilt，Virtual reality，EEG

6. セッション 6　　(8 月 19 日 13:40-14:35)
座長：河村康佑

6.1. 2S061 クライミング動作における心理学的アプローチ(仮)

○杉卓洋（首都大学東京）

近年，競技としてのスポーツクライミングが日本で注目を集めている．この背景として考えられるのは，オリンピック競技として採用され,認知度も高くなってきていること，クライミングジムの増加，メディアへの露出の増加，日本人選手の活躍といった要因が考えられる．しかし，科学的なスポーツクライミングの研究は歴史が浅く十分になされているとは言えない．その中においても，バイオメカニクス・生理学的な研究が大多数であり，知覚・認知分野の研究はごく少数である．本研究では，クライミング動作における特徴を実験心理学的な手法を用いて検証したい．具体的には，空間処理・記憶に関する実験，身体図式の比較実験，複数試行における慣れに関する研究を行う．これらの実験を通して，熟練度に応じた知覚特性，クライミング試行による身体図式の介入について考察するとともに，バイオメカニクス研究により得られた知見と心理学的知見の統合を試みる．

キーワード：知覚，運動学習，クライミング，身体図式，空間情報処理

6.2.　2S062

時間制限が視覚弁別に及ぼす影響について

○猿澤拓真（首都大学東京）
石原正規（首都大学東京）

何らかの課題を行う際に，制限時間の終了が予測できる場合，制限時間の終了が予測できない場合に比べて，課題遂行のために与えられている時間は少なく感じる．制限時間の終了が予測できる場合，制限時間の終了が予測できない場合に比べて，相対的に課題を行っている時間が長くなるため，そのことによって，課題遂行中時間分解能が高くなるのではないかという仮説を考えた．本研究では，聴覚的，あるいは視覚的タイムプレッシャーと，視覚の時間弁別課題を用いて，時間制限下における視覚の機能的特徴の理解を目標とする．

キーワード：時間知覚，　タイムプレッシャー

6.3.　2S063

空間と感情の連合—利き手・利き足による影響の検討—

○山本健太郎（九州大学）
佐々木恭志郎（早稲田大学／日本学術振興会）

人の感情の判断や認識は，身体を中心とした空間位置に影響を受けることが知られている．例えば，右利きの参加者は自身の右側の空間をポジティブな感情と結びつけやすく，左側の空間をネガティブな感情と結びつけやすい．一方で左利きの参加者の場合は，感情と空間の対応が逆になることが示されており，身体運動の流暢性が感情と空間の連合に重要であることが示唆されている．先行研究では主に，利き手・非利き手および利き足・非利き足間の差を調べることで，空間と感情の連合が検討されてきた．しかし，手と足の利き側の違いが相互にどのような影響を与えるかは分かっていない．本研究では，質問紙形式の利き手・利き足検査を行い，その得点が空間と感情の連合とどう関連するのかを，感情刺激への反応時間を用いて検討した．この実験の結果について，流暢性仮説の観点から考察を行う予定である．

キーワード：身体化，空間，感情，反応時間

7. セッション 7　　(8 月 19 日 14:45-15:50)
座長：金谷英俊

7.1. 2S071
ベクションの現象的様相

○小松英海（慶應義塾大学）
村田佳代子（首都大学東京）
妹尾武治（九州大学）

自分が静止しているにもかかわらず，橋の上から川を見ていると川の流れとは逆の方向に自分が動いて感じることがある(Mach, 1875)．この自己運動知覚(ベクション)に対して様々なアプローチがとられてきた．指標としては，知覚が生じるまでの潜時，1 試行中の累積持続時間，強度についての主観評定値が一般的に採用されている．主観的な現象でありながら，その現象の生起中に感じられていることについての報告が極めて希薄であった．本研究では拡大または縮小するオプティックフローパターンの提示中，知覚者が感じていることを口頭で，できるだけ言語記述することを求めた．その結果，これまで拡散パターンは前進，縮小パターンは後退と言われてきたが，拡散に比べて収束パターンでのベクションの知覚された方向が不安定であることがわかった．また，移動の速度印象が試行中変化すること，知覚された自己運動をかなり能動的に感じていることが明らかになった．
キーワード：ベクション，言語記述，現象学的アプローチ

7.2.　2S072

写真の知覚的絶対距離と知覚的相対距離

：客観的距離と焦点距離と画面の大きさと観察距離と

○竹澤智美（立命館大学）

写真を眺めれば，観察者から特定の対象までの絶対距離や，遠近に配置された二つの対象間の相対距離を見積もることができる．しかし，写真の観察時に知覚される距離は，撮影時の客観的距離と必ずしも一致せず，知覚的距離は客観的距離から規則的にズレていく．このとき知覚的絶対距離と知覚的相対距離の変化の様相は明らかに異なる．いくつかの実験結果に基づき，絶対距離と相対距離の知覚的距離が，客観的距離，焦点距離，画面の大きさ，観察距離にともないそれぞれどのように変化するのか，またそれはなぜなのか，関係式を交えて説明する．写真のなかの知覚的距離は，対象の像の網膜的大きさが主要な手がかりになると考えられてきたが，画面上に存在する対象の像の大きさや，画面全体に占める対象の像の割合，二つの対象の像の大きさ比にも依存すると考えられる．なお，これら知覚的距離が対象の印象に影響を与える事例も紹介し，写真表現について付言したい．

キーワード：写真、距離知覚，絶対距離と相対距離，撮影方法と観察方法，網膜的大きさと大きさ比

7.3.　2S073

フォントの線幅が日本語文の読みやすさに与える影響

○大西まどか（東京女子大学）
小田浩一（東京女子大学）

目的：太さは読みやすさに大きく影響する文字特性の一つである．本研究では，様々な線幅に調整したフォントで読書評価を行い，文字の太さが読みやすさに与える影響を体系的に検討した．方法：10 文字 3 行の簡易な日本語文を多数用意し，線幅の異なる 6 種類の文字を使って文章を作って画面に提示して，視覚正常の大学生に音読させた．刺激文章の大きさは視角 0.48～30.68 分で，0.1log 刻みで 19 段階用意した．結果と考察：線幅が太くなると，RA が小さくなる傾向があった．線幅を文字の認識に Critical な空間周波数帯域(CB, 3cpl)の成分量と定義して読書視力(Reading Acuity, RA)を説明することを試みたところ，非常によく説明された．媒介分析の結果から，線幅が読みやすさに与える影響を，CB の成分量が媒介していることが示された．

キーワード：読書評価，フォント，空間周波数

8. セッション 8　　（8 月 19 日 16:00-17:05）
座長：安岡晶子

8.1. 2S081

サル扁桃核における刺激の主観的価値と強度の表現

○岩沖晴彦（京都大学霊長類研究所）
中村克樹（京都大学霊長類研究所）

ヒト fMRI 研究では、扁桃核は恐怖刺激に対して活動があり、それら刺激の強度が高くなるにつれて扁桃核の活動も高くなることが知られている（Canli et al., 2000）。また、扁桃核はポジティブな刺激に対しても活動することから、扁桃核は刺激の価値（ネガティブ/ポジティブ）と強度（刺激の量）という 2 つの次元で情報をコードしていると考えられている（Bonnet et al., 2015）。しかし、ヒトの fMRI 研究では空間分解能の限界があり、実際に扁桃核ニューロンがこれらの情報をどのようにコードしているかはまだわかっていない。そこで、本研究では扁桃核が刺激の価値と強度をどのような様式でコードしているか、アカゲザルを用いて単一ニューロン記録によって明らかにする。

キーワード：主観的価値と強度、扁桃核、単一ニューロン記録

8.2. 2S082

ケプストラム分析を用いた音声の因子分析

○上田和夫（九州大学／九州大学応用知覚科学研究センター）
岸田拓也（九州大学／日本学術振興会）
中島祥好（九州大学／九州大学応用知覚科学研究センター）

臨界帯域フィルターを通した 8 言語／方言の音声のパワースペクトルの変動について，因子分析を行い，これらの言語に共通する 3 ないし 4 因子により，音声の周波数帯域を 4 帯域に分割できることを見いだした［Ueda and Nakajima (2017). Sci. Rep., 7, 42468］．しかし，ケプストラム分析を応用することにより，言語間の相違についても知見を得られる可能性がある．予備的な分析により，日本語の 4 因子の分析では従来方法による分析結果と近い結果が得られている．

キーワード：音声，臨界帯域，パワー変動，因子分析，ケプストラム分析

8.3.　2S083

まばたきが視野闘争に及ぼす影響

○佐藤涼矢（千葉大学）

視野闘争実験中に‘まばたきによって知覚交替が誘引される’という内省が多く報告される．この現象はまばたきに伴う視覚的な変化が交替の契機に該当するという解釈にとどまり，まばたきの効用について検討した研究は少ない．本研究では，まばたき自体が知覚交替に与える影響を検討した．30 秒間の視野闘争実験中において，教示によってまばたき回数を減少させた結果，それに応じた知覚交替数の減少がみられた．また，まばたき減少時に，まばたきと同程度の視覚的遮蔽を物理的に付加した条件においても，同様に知覚交替数の減少がみられた．この結果は視野の遮蔽という一過性の変化ではなく，まばたき自体が知覚交替数に影響を与えることを示す．本実験より，視野闘争における知覚交替とまばたきの随伴関係が示された．今後の実験では，まばたきの効用を指標に視野闘争における知覚交替について検討していく．

キーワード：視野闘争，まばたき，知覚交替

9. セッション 9　　（8 月 20 日 8:50-9:55）
座長：山本健太郎

9.1. 3S091
映画・映像と知覚心理学

○鈴木清重（東の森映画製作所／慶應義塾大学）

本報告の目的は，映像心理学の概要を紹介しながら，１）映画・映像の研究に知覚心理学が果たす役割を考察し，２）知覚の研究に映画・映像が果たす役割を考察することである．映像心理学は，映像学，アニメーション学，デザイン学，芸術学に隣接する心理学の研究領域である．映像心理学を，a）映像を研究対象とする心理学，b）映像を主要な方法とする心理学，c）映像体験に寄与する心理学の３つに分類し概要を紹介する．知覚心理学は映像心理学の基礎領域であり，視覚と聴覚に関する研究の多くは映像心理学に発展する可能性を持つ．一方，映像に関する哲学で活発に議論される「身体性」に関わる知覚心理学は，映像概念とは異なる視点の研究を志向すると考えられる．慶應義塾大学日吉心理学教室の実験機器を取材した映像の一部を紹介する．ドキュメンタリー映画の手法を活用した知覚心理学の理論と歴史に関する研究の可能性を考察する．
キーワード：映像，身体，事象，知覚，表現

9.2.　3S092

唇の色が肌の明るさ知覚に及ぼす効果

○小林勇輝（大阪大学）
松下戦具（大阪大学）
森川和則（大阪大学）

顔における幾何学的錯視がこれまでに報告されてきた一方，顔における色や明るさの錯視はほとんど研究されてきていない．本研究では，唇の色が肌の明るさの知覚に与える影響を心理物理学的手法によって測定した．実験 1 の結果，赤い唇が肌を明るく見せ，暗い唇が肌を暗く見せることが明らかとなった．これらの効果は古典的に一般物体を用いて研究されてきた明るさの錯視とは二つの点で異なっている．まず一つは，明るさの誘導領域である”唇”が，被誘導領域である”肌”よりもはるかに小さいという点である．古典的な明るさ錯視においては，小領域から大領域への明るさ誘導は起きにくいとされてきた．また，対比よりも同化の傾向が見られているという点もこの錯視の特殊性を示している．倒立顔を用いた実験 2 では，実験 1 の結果が全体処理によって引き起こされていることが明らかとなり，顔特有の明るさ錯視の存在が示された．本研究の結果は化粧による錯視を示すと同時に顔における錯視の新展開を示唆する．
キーワード：明るさ，顔，化粧，錯視

9.3.　3S093

視覚刺激が示唆する温冷と反応手の温冷との刺激-運動反応適合性

○金谷英俊（愛知淑徳大学）
西崎友規子（京都工芸繊維大学大学戦略推進機構）
永井聖剛（立命館大学）

視覚刺激から示唆される温かさと，実験参加者の反応手に対する物理的な温度との間の関係性について，刺激反応適合性パラダイムを用いて検討した．参加者の片方の手を温かい湯に，もう片方の手を冷たい水に浸したうえで，実験 1 では，火や熱等の温かさを示す写真刺激（温刺激）もしくは雪や氷等の冷たさを示す写真刺激（冷刺激）を，実験 2 では喜び表情の顔刺激（温刺激）もしくは悲しみ表情の顔刺激（冷刺激）を提示し，これらの刺激への反応課題を行わせた．参加者の課題は，温刺激には温かい手で，冷刺激には冷たい手で反応する（適合条件），もしくは，温刺激には冷たい手で，冷刺激には温かい手で反応する（不適合条件）ことであった．その結果，温刺激と冷刺激の両方で，不適合条件と比べて適合条件にて反応時間が短くなった．一連の実験結果をもとに，温冷認知における視覚入力と運動出力システム間の温冷情報のあり方について議論する．
キーワード：温冷認知，刺激-運動反応適合性，顔表情

10. セッション１０　（8 月 20 日 10:05-10:50）

座長：箕谷啓太

10.1. 3S101

高親密度の有意味刺激で構成された配列に対する高速比率判断

○佐久間直人（千葉大学）

一度に複数の数字を見たとき，全体的な意味処理や多く含まれる刺激項目の把握（比率判断）が高速で行われる．しかし，英語圏におけるアラビア数字は，他の文字とは異なる特性をいくつも持っている．本研究では，数字の特性を、物理的構造，数的な意味を有していること，表語文字であること，使用頻度が極端に高いことに分解し，各特性の寄与を調べる実験を行った．刺激には，アラビア数字にもアルファベットにも見える文字，漢数字にもカタカナにも見える文字，数的意味の無い漢字，記号と統制刺激を用いた．課題は，２種類の刺激６個で構成された刺激配列を注視点の左右に２セット同時に 200ms 呈示し，どちらの配列に指定されたパターンが多いかを判断させた．その結果，有意味かつ使用頻度が高い文字や図形を用いれば，数的な意味がなく，さらには表語文字でなくても瞬間的な比率判断が可能であることを示した．

キーワード：比率判断，文字認知，表語文字

10.2. 3S102

iPad による読書視力評価アプリの試作

○小田浩一（東京女子大学）
乃一祐（東京女子大学）
鈴木陽菜（東京女子大学）
Long To（Boston, MA）
Gordon Legge（University of Minnesota）

目的：ロービジョンの読書困難を行動的に評価する MNREAD の日本版には PC 版がある(小田・西村，2002)が，モニタの解像度が低く臨床応用に制限があった．"Retina display"の iPad でアプリを試作しチャート版と測定結果の比較をした．方法：英語の iPad 版 MNREAD に以下の最小限の変更を加えて試作：(1) 読書材料の変更，(2) 標準測定距離の変更，(3) 距離に合わせた文字サイズの変更．視覚正常の大学生 15 名を対象に読書視力(RA)，臨界文字サイズ(CPS)，最大読書速度(MRS)を求めて比較した．実験協力者は遮蔽箔で小数視力 0.1, 0.2, 0.4 のいずれかに視力低下させた．結果と考察：RA, CPS は R^2 が 0.91 以上で回帰直線の切片は 0.02，傾きは 1.08 未満であった．MRS では iPad 版で 4.5%ほど遅いが有意ではなく R^2 は 0.71 と比較的高かった．

キーワード：読書視力，読書困難，MNREAD，iPad，Retina Display

7. エクスカーション

<8 月 20 日（日）午後>

中伊豆ワイナリーヒルズからの眺め（2017 年 4 月 5 日撮影）

● 概要

本年度の YPS では、**エクスカーションとして中伊豆ワイナリーヒルズでの食事や見学を企画**しました。レストランで皆様と食事を楽しんだ後、ワインやグラッパ、葡萄ジュースの試飲や施設の見学、景色や雰囲気を十分にご堪能いただければ幸いです。

中伊豆ワイナリーヒルズは、建物に面している畑で栽培された葡萄、山梨県産や長野県産の良質な葡萄などからワイン（赤、白、ロゼ）、グラッパ、ワインビネガー等を製造し、販売しています。製造工場、コレクションセラー、葡萄畑等の施設を自由に見学できます。国内でワインやグラッパを製造している非常に珍しい施設です。さらに、ワインを無料で試飲できるコーナーや、高級なワインやグラッパが低価格で堪能できる試飲コーナーがあります。ワインショップは、中伊豆産ワイン、カリフォルニアの代表ナパバレー産ワインや、おつまみにピッタリなチーズやソーセージ等を販売しており、非常に充実した時間になることと思います。また、伊豆のお土産も多数取り揃えており、ワイン以外のお土産の購入も可能です。

● 行先

中伊豆ワイナリーヒルズ　〒410-2501　静岡県伊豆市下白岩 1434
http://www.shidax.co.jp/winery/access/

● 参加費

2,500 円（昼食代込み）

● スケジュール（予定）

12 時 30 分　いづみ荘のロビーに集合
【貸し切りバスにて移動】
13 時 00 分　中伊豆ワイナリーヒルズ「ワイナリーシャトーT.S」へ到着
13 時 15 分　テラスカフェ「カリフォルニア」にてサラダバーとビッフェ料理の食べ放題
【食事時間 60 分】
14 時 15 分　ガイドツアー
ヒルズワイン蔵やグラッパの丘蒸留所、ワイン畑の見学
ワインやグラッパの試飲（無料・有料あり）
ワインショップでのお土産購入
【見学時間 60 分】
15 時 15 分　中伊豆ワイナリーヒルズのロビーに集合
【貸し切りバスにて移動】
15 時 30 分　伊豆箱根鉄道駿豆線修善寺駅へ到着・解散

● 中伊豆ワイナリーヒルズの紹介写真

8. 大会参加者リスト

（五十音順、敬称略、48 名）

麻野井千尋　（東京女子大学大学院人間科学研究科／日本学術振興会）
一川誠　（千葉大学人文科学研究院）
岩沖晴彦　（京都大学霊長類研究所）
上田和夫　（九州大学大学院芸術工学研究院デザイン人間科学部門／応用知覚科学研究センター）
上地泰一郎　（千葉大学大学院融合理工学府）
上野太郎　（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）
臼井健太郎　（立命館大学総合心理学部）
永登大和　（千葉大学）
大西まどか　（東京女子大学大学院人間科学研究科）
小田浩一　（東京女子大学）
加地雄一　（東京家政学院大学）
金谷英俊　（愛知淑徳大学人間情報学部）
狩野千鶴　（慶應義塾大学）
河村康佑　（千葉大学）
北川智利　（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）
草野勉　（神奈川大学マルチモーダル研究所）
小林美沙　（千葉大学人文公共学府）
小林由佳　（中京大学心理学研究科）
小林勇輝　（大阪大学）
小松英海　（慶應義塾大学商学部）
境敦史　（明星大学心理学部）
佐久間直人　（千葉大学）
佐藤涼矢　（千葉大学人文公共学府）
猿澤拓真　（首都大学東京都市教養学部都市教養学科
人文・社会系心理学教育学コース心理学分野）
下條朝也　（名古屋大学大学院）
杉卓洋　（首都大学東京大学院人文科学研究科人間科学専攻心理学教室実験心理学）
鈴木清重　（東の森映画製作所・慶應義塾大学）
鷲見成正　（慶應義塾大学）
高橋あおい　（東京女子大学大学院人間科学研究科／理化学研究所）
竹澤智美　（立命館大学）
竹之内博史　（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）
辻田匡葵　（東京大学先端科学技術研究センター）
富田瑛智　（大阪大学）

増田知尋　（文教大学）
増田奈央子　（久留米大学比較文化研究所）
松本拓也　（慶應義塾大学）
丸山敦也　（文教大学人間科学部心理学科）
箕谷啓太　（東京工業大学・日本学術振興会）
三好正剛　（千葉大学人文社会科学研究科）
村田佳代子　（首都大学東京大学院人文科学研究科）
本居快　（愛知淑徳大学大学院心理医療科学研究科
心理医療科学専攻医療科学コース視覚科学領域）
森将輝　（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科／日本学術振興会）
森本智志　（奈良先端科学技術大学院大学）
安岡晶子　（中央大学）
山本健太郎　（九州大学）
WANG YARU（千葉大学）
渡辺利夫　（慶應義塾大学）
渡辺南友　（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）

9. 研究会開催にかかる助成

本研究会は、以下の学会から研究会開催にかかる助成を受けております。
ここに記して、感謝の意を表します。

・日本視覚学会

http://www.visionsociety.jp/

日本視覚学会 Vision Society of Japan

・日本基礎心理学会

http://psychonomic.jp/

日本基礎心理学会
The Japanese Psychonomic Society

10. ＹＰＳ２０１７実行委員会

連絡先（代表）：yps2017@yahoo.co.jp

実行委員長　：村田佳代子（首都大学東京大学院人文科学研究科）
実行委員　　：草野勉（神奈川大学マルチモーダル研究所）
実行委員　　：森将輝（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科／日本学術振興会）
実行委員　　：高橋あおい（東京女子大学大学院人間科学研究科）
実行委員　　：大西まどか（東京女子大学大学院人間科学研究科）
アドバイザー：小松英海（慶應義塾大学商学部）